

## 「教師の仕事と4月までの課題」

教師の仕事は、子どものことを第一に考え、子どもの成長を助けたり促したりすることであると考えます。それを1人で行うのではなく、同僚や保護者、地域の人達と連携してみんなで育てていく、という意識が大切であると考えます。教師が一番子どもと関わるのは授業と学校内である。小学校であればほぼ全教科を受け持つことになるので、自分の学級の子どもたちとずっと一緒にいることが大半である。その中で、学習の様子から休み時間の行動など子どもの様子を見て、子ども一人ひとり、もしくは学級や集団にあった対応をする必要がある。そこで見られた子どもの様子等は、保護者の方々にフィードバックしたり、同僚の中で共有する。自分一人の視点だけでなく、他の人の視点も入れることで、より子どもについて考えることが出来る。そのためにも、普段からの同僚関係を築くことは大切であり、保護者とも情報交換をする必要がある。そのため学級通信や教育相談を有効に活用していくと、関係を築いて行きやすいと思う。

4月からは、子どもの前に立つ前には心に余裕を持っておきたいと思う。初めは絶対に戸惑ったりしたりあわててしまうことが多いだろう。しかし、すべての仕事がゼロからのスタートなわけではないと教職実践演習を通して感じたので、今までの経験や知識を思い出して、できるだけ落ち着いて行動したい。そのためにも、これまで経験してきた実習での内容を振り返り、少しでも自分の引き出しを増やしておきたいと思う。また、配属された学校付近の土地について学習したいと思っている。土地について知ることがその場所に慣れることにもつながるし、そういうところに積極的に関わっていききたいと思う。